

「商品を手に取ってくださるお客様のことを思いながら…」
初心を忘れないものづくりを続けていきたい。



長尾 絵美
縫製



もっと生の声 Q & A

——やりがいは何ですか？

街でジョンブルの商品を身に着ている人を見かけた時は、とても嬉しいですね。喜んでもらえる商品を作ろうという原動力になります。

——思い出に残っているエピソードは？

入社1年目に早く上達したくて、Gジャンを練習用・本番用・プレゼント用と3着作り、彼にプレゼントしました。そのGジャンは、年月が経ちデザインが少し古くなってしましましたが、今でも大切に愛用してくれています。実は、今年結婚したのですが、夫はその時の彼なんですよ(笑)。同じようにお客様にもジョンブルの商品を長く愛用していただけるとうれしいですね。

——将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。
学校で学ぶこと、就職してから学ぶことは違うと思いますが、今は学生時代に学べることや興味のあることをやりきって下さい。これから先、ものづくりに携わる上で、無駄になることは決してないですよ。

ものづくりが好きで服を作る仕事に就きたかったという長尾さん。部分縫いではなく、丸縫いができることからジョンブルへの就職を選んだといいます。入社時には、1週間店頭での販売を体験し、“工場で作る商品の先にはお客様がいて、喜んでいただける商品をお届けする”というジョンブルのものづくりへの姿勢を学びました。入社9年目となる現在は、縫製業務の本生産やサンプル作成を担当しています。「ジョンブルでは、メンズとレディスがあり、また、アイテムもデニム以外にコートなどの上物があります。さらに生地に関しても薄地から厚地と様々な商品を扱っていますので、とても勉強になります。さらに、その縫製を経験することでステップアップできるのがジョンブルで働く魅力のひとつです。」

「長く働いていると、縫うことだけに集中しがちですが、入社時の経験を思い出し、商品を手に取ってくださるお客様のことを考えながら仕事に取り組むように心掛けています。」その一環として、プライベートでは友達や家族の誕生日に、自分が縫製した服をプレゼントするようになっているそうです。そして、家族や友達が、長く愛用してくれているのを見ると、「届けるべき相手のいる仕事であること、つくることの楽しさと喜びを再認識することができます。」

また、昨年から工場の広報を新たに担当し、イベント会場でライブ縫製を行うなど社外に出向いてジョンブルのものづくりを積極的にPRしているそうです。「ひとりでも多くの方にジョンブルのものづくりや商品の魅力をお伝えできたらと思っています。そして、この取り組みを通して、若い人たちが服を作る仕事に興味を持ち、次世代の担い手となるきっかけになればと思っています。今後も続けていきたいですね。」

